

目 次

第1章 問題提起

ナイチンゲールにおける看護思想の継承のために.....	1
はじめに 今、なぜナイチンゲールなのか.....	1
第1節 看護の近代化にともなう危険／危機.....	10
第2節 ナイチンゲールにおける看護の根底にあるもの.....	26
第3節 ナイチンゲールにおける看護思想 ―その継承と難しさ―.....	35

第2章 ナイチンゲールにおける、宗教理解のための予備的考察.....45

第1節 宗教言語とは何か.....	45
1) 言語とは何か.....	46
2) 言語の虚構性／仮構性.....	48
3) 統合経験としての直接経験（自然本来の事実性）.....	52
A) 主―客―直接経験.....	57
B) 我―汝―直接経験.....	59
C) 自己―自我―直接経験.....	62
D) 共同体性―直接経験.....	65
4) 言語のジャンルと機能及び無意味条件.....	67
A) 客観的記述言語.....	68
B) 自覚表現言語.....	70
C) 動能（要求・命令・約束）言語.....	72
5) 宗教言語（直接経験／統合経験を語る言語）.....	76
6) 「客観的述言語」「自覚表現言語」「動能言語」の関係.....	81
7) 理解の解釈学的.....	84

第2節 場所論としての宗教哲学.....	88
1) 場所論のための基礎概念.....	89
2) 場所論の記号化.....	93
3) 新約聖書における場所論的概念とその記号化.....	98
A) 神と人間の作用的—（うちなるキリスト／自己）の記号化.....	100
B) 自己・自我の記号化.....	106
C) 神と世界の作用的—（ロゴス／法則）の記号化.....	108
D) 愛の記号化.....	114
E) 共同体性の記号化.....	118
第3章 ナイチンゲールの看護思想 <コモンセンス>を手掛かりにして.....	121
第1節 ナイチンゲールが<コモンセンス>としての看護を語る言語.....	125
第2節 ナイチンゲールの看護思想における身体.....	137
1) 「自己—自我」の位相としての身体.....	141
2) 「主—客」の位相としての身体.....	148
3) 「我—汝」の位相としての身体.....	159
4) 「共同体性」の位相としての身体.....	164
第3節 宗教を根底に据えた自覚としての看護.....	169
1) ナイチンゲールの看護思想における「観察」	
<言葉><事実><女性>を手掛かりとして.....	174
2) <コモンセンス>としての看護.....	185
3) <コーリング>としての看護.....	194
おわりに ナイチンゲールにおける看護思想を継承するとは.....	208
参考文献.....	223